

霧島

県境を越えて連携 日本ジオパークに認定

Japan Geo-park



ジオパークの魅力

ジオパークには日本ジオパーク委員会が認定する「日本ジオパーク」があります。さらにユネスコ（国連教育科学文化機関）から支援を受けている世界ジオパークネットワークが認定する「世界ジオパーク」があります。

ジオパークとは屋久島などの世界遺産が保全や保護を重視するのに対して、貴重な地質や地形などの自然を観光や教育、地域振興などに積極的に活用する取り組みも重視されています。霧島ジオパークは「自然の多様性とそれを育む火山活動」をテーマとして「景観」「火山の博物館」「植生」「神話・歴史」の四つの魅力があります。霧島山は加久藤カルデラの南に位置しています。大小20あまりの火山と火口湖があり、約20万年前から現在までの火山活動の影響でミヤマキリシマやノカイドウなど多様な植物が観察できます。周辺には関之尾滝（都城市）や桐原の滝（曾於市）、須木の滝（小林市）など約34万年前に噴出した加久藤火砕流の堆積物でできた滝なども多くあります。霧島は火山が作り出した自然を見て満足し、学ぶことができる場所なのです。

霧島の山々を見て日々生活をしている私たち。私たちは身近にあるその山々を含めた自然が、貴重な地質であり地形だということをこれまであまり意識せずに生活してきました。

その霧島山を中心とした一帯が9月14日、日本ジオパークに認定されました。このことは霧島が昭和9年に日本で最初の国立公園に指定されたことと同じくらい大きな出来事です。

霧島の魅力を発信

霧島ジオパーク推進連絡協議会は平成20年10月に設立されました。霧島ジオパークの範囲は、国立公園霧島を中心

としてJR日豊線・肥薩線・吉都線で囲まれた区域と加久藤火砕流でできた滝や渓谷を区域としています。協議会はこの区域にある鹿児島県の霧島市・曾於市、宮崎県の都城市、小林市、えびの市、高原町と鹿児島県、宮崎県、観光協会など県境を越えた各種関係団体で構成されています。

協議会では昨年度の認定を目指していましたが、認定を確実なものとするために1年間、日本ジオパーク委員会への申請を延期することにしました。この間に認定に向けてジオパークを案内するジオガイドの養成やフォーラムの開催。環霧島会議では小中学生向けの副読本、霧島防災火山マップの作成などを進めてき

ました。今年4月に認定申請書を提出、5月に公開プレゼンテーション、8月の現地調査を経て今回の認定となりました。

今後は霧島ジオパークの魅力を国内外に発信するとともに、世界中の人々を迎えるための案内板や拠点施設の充実とこれまでの活動を前進させる必要があります。このほかガイドブックの作成、新たな関連商品や観光ルートの開発を地域振興に役立てていくことも大切です。

霧島ジオパークがもたらす教育や地域経済発展への大きな期待、それを実現するための具体的な活動がいよいよ始まります。

出かけてみませんか

協議会にはジオパークを案内するジオガイドが現在65人登録されています。これから紅葉のシーズンです。紅葉を見るだけでなく、一緒にジオパークのことについて遊びながら学んでみませんか。